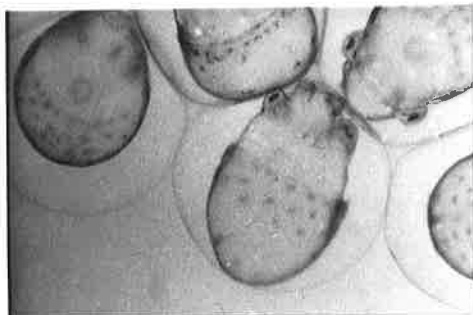


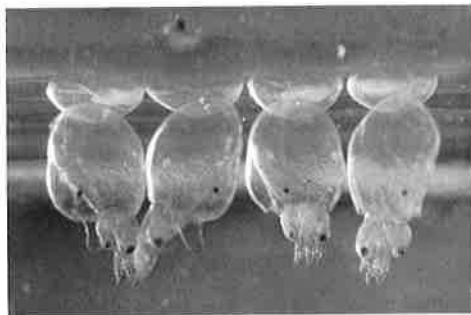
水槽内で得られたホタルイカのこども

魚津水族館では毎年4月、5月にホタルイカの水槽展示を行っています。ホタルイカは日本近海に広く分布しているのですが、富山湾では古くから漁業の対象とされ、春に産卵のため接岸してくる群れ（ほとんどが雌）を、主に定置網で捕獲しています。この定置網で捕獲された個体を搬入し、展示しています。ほとんどが1日～3日間で死亡してしましますが、その間に卵が産み出されていることが良くあります。そこで、1991年4月～6月にかけて、この様にして得られた卵を用いて発生実験を行ってみました。実験は23回行い、そのうちの11回で孵化がみられ、ホタルイカのこども（稚イカ）を得ることができました。稚イカは最長で10日間生存しましたが、餌付けまで至らず死亡しました。餌付けが今後の課題といえます。孵化前後の写真と、今回初めて撮影した孵化後しばらく経った稚イカの写真を紹介します。体表の色素や眼の色をカラーでお見せできないのが残念です。

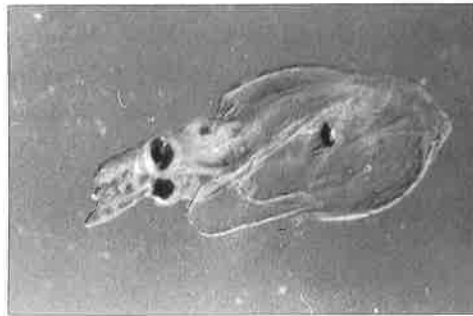
(稲村 修)



産卵後3日目の卵（孵化前日）



孵化から約1日間、稚イカは外套の先端を水面直下につけ、頭を下にして動かないでいます。

孵化直後の稚イカで、ほとんど動かない。
全長約1.9mm

孵化後5日目の稚イカで、腕は伸び、大きな漏斗から水を吐き、元気良く泳ぐのが見られます。全長約2.5mm。